

体験談

編入学での体験を通して

さらなる飛躍をめざして

渡部 暁

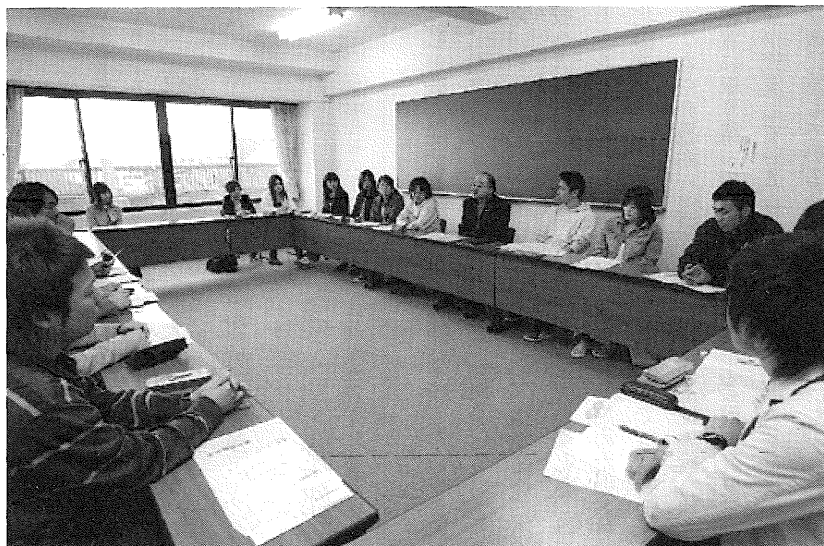
(東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科社会福祉コース専攻)

私が編入学を考えたのは、専門学校二年の時である。私は二五歳の時に人と接する福祉の仕事をしていきたいと考え、それまで行っていた仕事を辞め、福祉医療系の専門学校へ入学した。そこで、勉強することの楽しさ、学問の難しさを感じた。そして、より専門性を高めたいと思い、東北福祉大学へ進学した。東北福祉大学では、特別養護老人ホームや介護老人保健施設など関連福祉施設を通じた実学教育に取り組んでいること、美術工芸館や音楽堂などの施設が充実している点に魅力を感じ、編入学を決めた。編入学後に感じていることが四つある。

一つ目は、年間のカリキュラムを自分で選択し決定する履修の方法である。今まで専門学校で取得した単位が編入学後すべて認定されるわけではないため、戸惑うこともあったが、教学部の各種ガイダンスや個別相談、ゼミの仲間たちのアドバイスを通じてスムーズに授業に取り組むことができた。

二つ目は、友人同士との充実した時間である。私が編入学した年には二十数名の編入生がいるが、全員がより幅広い分野を学びたい、資格を取得したい、スキルアップをしたいとの明確な目標を持ち、編入学をしている。だからこそ互いに共感することができ、お互いに励ましあうことができる。また、東北福祉大学では、人間基礎論という教職員や大学院生の三者サポートによるクラスごとのゼミがあり学生生活や学習に関することなど気軽に語り合うことができている。特に、様々な福祉問題にゼミ生同士で取り組むことには新鮮な感動を覚えた。

三つ目は、多くの交流を持つことができることである。講義、ゼミ、ボランティア活動などを通じて多様な価値観を持つ友人、教職員、地域の人々と出会うことができることは、大きな魅力である。大学のボランティアセンターや



ゼミを通じてこれからの福祉のあり方について議論を深めていく

エクステンションセンターなどが実施する講座やイベントで様々な人々と交流する機会がある。また就職部やインターンシップ室、公務員受験対策室のキャリアサポートを友人とともに有効活用しているが、ここでも交友関係を深めることができる。

四つ目は、これまで学んできた知識をより専門的に深めることができること。講義の空き時間を利用し、図書館で勉強したり、教員や学生同士議論をしたり、あるいは現場での実践など、時間に追われていた専門学校とは違い、東北福祉大学では自分の時間を有効に使うことができる。これらの点が、編入学後私を感じてきたことである。

編入学から一年半近く経過しようとしているが、楽しみながら学生生活を送っている。その中で改めて気づかされたことは、自分に厳しく、目標を持ちながら主体的に学生生活に参加する心構えの重要性である。この思いも編入学という学お機会を知り、挑戦した結果得られたものだと感じている。

編入学としての大学生活は残りわずかだが、楽しみながら知識を増やし、卒業後現場において大学で得た知識を実践できるように自己研鑽に励んでいきたいと考えている。